

9月23日（月）

ハンブルク市表敬訪問



ハンブルク市庁舎

ハンブルク市はドイツの北部に位置する、ドイツ連邦共和国を構成する連邦州のうちの一つであるとともに地方自治体としての市でもあり、人口や経済規模においてはドイツ第二の都市である。地理的には北海に注ぐエルベ川の両岸に展開し、アルスター湖をはじめとする水域や森林・公園等の豊かな緑に恵まれ、「水と緑の都」と称されている。本市とは1989年5月11日に友好都市提携を行った。

ハンブルク市庁舎は、1886年から1897年の間に建設されたネオ・ルネッサンス様式の美しい建物で、街のシンボルの一つでもある。大阪市会代表団は、同庁舎において、ペーター・チェンチャー市長を表敬訪問した。

【ペーター・チェンチャー市長 挨拶要旨】

この度はようこそハンブルク市においていただいた。私どもも、先日大阪へお伺いさせていただいた際の印象は非常に強く持っている。

明日はハンブルク市主催のレセプションを予定しているが、これは我が市にとって非常に大切な客人を迎えるために開催させていただくものである。

ハンブルク市ではもう一つ重要な伝統があり、大切な来賓にはゴールデンプックというものにご記帳いただいている。

我が市にとって大切な友好都市である大阪市の市長と議長にお越しいただいたことを記念して、後ほどぜひご記帳をお願いしたい。

両市の友好都市提携30周年を祝うだけでなく、両市の交流が事務レベルでも様々な面で進展していることを非常に喜ばしく思う。特に経済面での提携について、後ほど合意書にサインすることを予定しているが、こうした経済レベルでの両市の連携の強化に、これからも努めていきたいと考えている。



挨拶されるチェンチャー市長

【松井市長 挨拶要旨】

この度はハンブルク市に温かくお迎えいただき、心より感謝申し上げます。

私にとって、はじめてのハンブルク訪問。経済・産業の中心地であり、また豊かな水と緑につつまれ、都市景観の美しさに感銘を受けている。

友好都市提携30周年の節目の年に、このようにハンブルク市を訪問できて大変うれしく思う。先月は、チェンチャー市長はじめ代表団の皆様を大阪にお迎えすることができ、光栄であった。今回は、先日署名した共同宣言に基づき、新たに都市インフラ分野などにおいても知見を共有していきたい。

特に、後ほどビジネス・パートナー都市の提携を予定している。これまでアジア太平洋の13都市と連携してきたが、今回初めて対象地域を広げ、EPA発効など、今後の交流が期待できる欧州の主要都市であるハンブルク市と提携する。今回、優れた技術を持つ在阪企業にも同行いただいている。今後さらなる経済交流を深めていきたい。

2025年には、国際博覧会が大阪のバイエリア「夢洲」で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される。ぜひ皆様にお越しいただきたい。

【広田議長 挨拶要旨】

ご多忙中にもかかわらず温かくお迎えいただき厚くお礼申し上げます。

先月、チェンチャー市長はじめ代表団の皆様には大阪にお越しいただいたことに大変感謝する。今日、こうして私どもがハンブルク市を訪問させていただいたことは非常に光栄であり、大変うれしく思う。

ハンブルク市には昨日着いたところであるが、市庁舎周辺の建物や公園、整備された道路などを見ても、都市景観が大変すばらしいと感じる。大阪市においても、ハンブルク市の先進的な取り組み事例をぜひ参考にさせていただきたい。

両市が30周年という記念すべき年を迎える中、後ほどにはアジア太平洋以外では初めてのビジネス・パートナー都市提携の調印を行う予定としている。今後一層深い経済交流を行っていけることを期待するとともに、両市の友好関係がより一層発展することを祈念する。

2025年に大阪で開催される万国博覧会への多くのハンブルク市民の来阪を期待するとともに、様々な交流事業を盛り上げることにより、友好都市としての絆の強さを世界にアピールできればすばらしいと考える。



意見交換の様子

【意見交換におけるチェンチャー市長発言概要】

- ハンブルク市で行われている大規模な開発計画の一つが、今回見ていただくハーフェンシティ。20年近くにわたってもともと港湾であった地域に都市の中心部を拡大するものであり、歴史的なものを残しつつ、近代的な都市に生まれ変わらせるという非常に重要なプロジェクト。
- 日本とEUの自由貿易協定が結ばれたところであるが、この度大阪市とハンブルク市においてビジネス・パートナー都市提携を結ぶことは非常に象徴的なものと思われる。
- ハンブルク市はあまり友好都市提携を締結していない。締結を行っている市は非常に重要なパートナーであると考えている。



ゴールドデンプックへの記帳

意見交換終了後、広田議長と松井市長はゴールドデンプックと呼ばれる、ハンブルク市の貴賓が署名する署名簿に記帳を行った。

その後、大阪市とハンブルク市とのビジネス・パートナー都市（BPC）提携の調印式が行われた。大阪市にとって、アジア太平洋地域以外の都市がBPCの相手方となるのは初めてのことである。

松井・チェンチャー両市長の立会いのもと、本市からは大阪ビジネス・パートナー都市協議会会長である柏木経済戦略局長が、ハンブルク市からはミュッケ商工会議所副会頭が、それぞれ提携合意のうえ署名を行った。



BPC提携合意書署名式の様子



チェンチャー市長と

在ハンブルク日本国総領事館との意見交換会

ハンブルク市内のレストランにおいて、加藤喜久子総領事をはじめ在ハンブルク日本国総領事館スタッフと食事をしながら意見交換を行った。

【意見交換概要】

○5年ごとの周年以外の年にも、マラソン大会や図書館、大学間などの交流を継続して実施しており、両市の魅力的なまちづくりに向け、さらに連携、交流を発展させていきたい。(大阪市)

○ハンブルク市はベルリンに次ぐドイツ第二の都市であるが、人口密度はそれほど高くない。水と緑の多い街。(総領事館)

○その他ドイツ及びハンブルクにおける最新情勢や交流実績について。(総領事館)



意見交換会

バイエリア再開発地区「ハーフェンシティ」視察

ハーフェンシティは、ハンブルク市が職住近接をテーマとして、ハンブルク港と倉庫街を結ぶ老朽化した港湾地区の再開発を進めている新しい地区である。2025年の完成を目指しており、欧州最大のウォーターフロント再開発プロジェクトとなっている。

今から10年前に本市との友好都市提携20周年を記念して命名された、「大阪アレー（大阪通り）」のほど近く、「持続性パビリオン」セミナールームにおいて、フィリップ・プラウナー ハーフェンシティ・ハンブルク株式会社執行部アシスタントよりハーフェンシティの開発コンセプトや事業の進め方、現在の進捗状況等について丁寧な説明を受けた。

説明後、コンサートホールであるエルプフィル・ハーモニーまで、実際にハーフェンシティを歩きながら、代表的な建物、港湾施設や開発の状況について具体的な説明を受けた。



大阪アレー（大阪通り）

【説明概要】

- ハーフェンシティは2000年に作成したマスタープランを土台としてプロジェクトが進められており、既に約半分が完了した。
- 開発に当たってはハーフェンシティを構成する10の地区ごと、あるいは建物ごとのそれぞれのレベルで、コンペによりコンセプトやプランが選定されている。
- 会社のガバナンスとしては、民間会社の形態をとっているが100%ハンブルク市当局の出資であり、市長が監査役会の会長を務める形でコントロールしているほか、諮問委員会は文化関係者、不動産管理関係者、住民などにより構成されている。
- 土地の売却益を原資として開発を進めているが、ハンブルク市がハンドリングを行えるように、いったん独占的なオプションとして売却先を決めた後、具体的なプランニングを経てから、最終的な売却を行うという手順を踏んでいる。
- 洪水対策は非常に重要なテーマであるが、従来の堤防を移設するのではなく、道路や供給ラインなどは盛り土を行うことで洪水から守られるようにしており、他方プロムナード（遊歩道）は水が入る領域として決められている。
- ドイツの中でハンブルク市が初めて建物に対する持続性、環境性の認証制度を2007年に立ち上げており、その後ドイツの各都市でも採用されるようになった。
- 持続可能な都市開発を行うため、資源の効率的な利用、炭素排出量削減に向けたモビリティ（移動性、移動手段）、環境に配慮したエネルギー供給等のプロジェクトに取り組んでいる。



説明を受ける代表団



進行中の開発の様子



エルプフィル・ハーモニーの上から

在ハンブルク日本国総領事館主催レセプション

在ハンブルク日本国総領事公邸で開催された総領事館主催のレセプションに参加した。加藤総領事に続いて松井市長の挨拶があったのち、和やかな雰囲気の中で、ハンブルクで活躍される日本人関係者の方々と総勢40名ほどで交流を深めた。

レセプションの中盤では在ハンブルク日本国総領事館公邸の料理長より、両市の友好都市提携30周年を祝う見事な装飾が施されたフルーツが提供され、会に花が添えられた。最後に広田議長が挨拶をし、参加者による記念撮影を行って閉幕となった。



挨拶される加藤総領事

【松井市長 挨拶要旨】

本日は、加藤総領事はじめ在ハンブルク日本国総領事館の主催で、このように盛大にレセプションを開催していただき、心からお礼を申しあげます。

また、本日ご出席の皆様には、日頃から大阪市とハンブルク市の友好都市交流にご理解、ご協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。

大阪市とハンブルク市の友好都市提携30周年を記念し、大阪市会代表団や在阪企業の皆様とともに訪問させていただきました。私にとって、はじめてのハンブルク訪問。経済・産業の中心地であり、また豊かな水と緑に生まれ、都市景観の美しさに感銘を受けている。

先月は、チェンチャー市長はじめ代表団の皆様を大阪にお迎えし、大変光栄であった。本日は、先日署名した共同宣言に基づき、ビジネス・パートナー都市の提携を行った。これまでアジア太平洋の13都市と連携してきたが、今回初めて対象地域を広げ、EPA発効など、今後の交流が期待できるハンブルク市と提携した。今後さらなる経済交流を深めていきたい。

2025年には、国際博覧会が大阪のベイエリア「夢洲」で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される。ぜひ皆様にお越しいただきたい。

30周年記念事業の実施に当たり、皆様から頂いた多大なるご支援に改めて感謝申し上げます、私からの挨拶とする。



大阪・ハンブルク友好都市提携30周年を祝うフルーツ

【広田議長 挨拶要旨】

本日は、お忙しい中このように盛大なレセプションを開催していただき、心からお礼を申し上げます。

関係者の皆様には、日々大阪市とハンブルク市の友好都市交流にご協力いただいております、ご多忙中にもかかわらず、こうしてお会いできたことをたいへん嬉しく存じます。

大阪市とハンブルク市は、共に国家を代表する経済都市・港湾都市として発展してきた。友好都市提携30周年という節目を迎えるにあたり、両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

2025年に大阪で開催される万国博覧会の開催の折には、ぜひ皆様にも大阪にお越しいただき、活力あふれるその姿を目の当たりにしていただきたいと存じます。



挨拶をする広田議長



参加者の皆さんと

30周年記念事業の実施にあたって皆様方から頂いた多大なる支援に改めて感謝を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。